

小6 シミュレーション

今回は自論を述べます。

今年の夏季休業は、例年とちがい、新学習指導要領へ移行措置を含めた対応を行っていたのではないのでしょうか。教育行政の立場からすれば、義務教育諸学校の管理職及び幼稚園等の教諭等に対し、新教育課程への説明会を終えることが出来ました。

さて、新教育課程を編成するにあたり、様々な対応が求められるが、その中で、物理的な解決を要することがある。

それは、小学4年以上に1単位時間増が求められることで、いかに対応したらよいか。

総則の解説には次のことが書いてある。

- ・年間授業日数については、学習指導要領で示している各教科等の内容の指導に支障のないよう、適切な日数を確保する必要がある。

- ・各教科等の年間授業時数は、計画段階から（別表第1に）定めている授業時数を下回って教育課程を編成することは、適当とは考えられない。

- ・時間割の弾力的な編成が可能であるが、平成20年中央教育審議会の答申において、「各教科の年間の標準授業時数を定めるに当たっては、子供の学習や生活のリズムの形成や学校の教育課程編成上の利便の観点から、週単位で固定した時間割で教育課程を編成し学習する方がより効果的・効率的であることを踏まえ、可能な限り35の倍数にすることが望ましい」との提言がなされた。この考え方は継続している。

ここで大切にしたいことは、子供の立場と平成10年学習指導要領時の週時程が年間を通じて定まらなかったことである。

毎週のように時間割が変わっていたことや今日、休み時間が5分程度になる慌ただしさは避けたいと考えている。

この考え方を基にすると、外国語の時間を週時程に固定し、年間を通じて大きな時間割の変更をしないこと及び短時間学習を入れないことである。

もちろん、教務主任と学級担任による時数調整は必要であるが、現在も行われていることでもあり、中学校の教科担任制に比べ学級担任制なので、柔軟な対応は比較的容易になると考える。

とにかく、安定した学習環境整備と教育課程の編成による落ち着いた学びが大切である。

そのために、校長のリーダーシップと教務主任の実務を含めたカリキュラム・マネジメントが重要になってくる。

		1期	2期	3期	4期	計
	年	9	10	10	9	
国語	175	5	4	5	5	180
社会	105	3	3	3	2	105
算数	175	5	5	4	5	180
理科	105	2	3	3	3	105
生活	-					0
音楽	50	2	1	2	1	57
図画工作	50	1	2	1	2	57
家庭	55	2	1	2	1	57
体育	90	2	3	2	3	95
道德	35	1	1	1	1	38
学級活動	35	1	1	1	1	38
総合	70	2	2	2	2	76
外国語活動	-					0
外国語	70	2	2	2	2	76
合計	1015	28	28	28	28	1064

1期	月	火	水	木	金
1限	国	社	体	外	国
2限	算	国	社	家	体
3限	理	算	国	家	総
4限	音	理	算	国	総
5限	外	道	音	算	社
6限	A	学	B	図	算

2期	月	火	水	木	金
1限	国	社	体	外	図
2限	算	国	社	家	体
3限	理	算	国	体	総
4限	理	理	算	国	総
5限	外	道	音	算	社
6限	A	学	B	図	算

3期	月	火	水	木	金
1限	国	社	体	外	国
2限	家	国	社	家	音
3限	理	算	国	体	総
4限	理	理	算	国	総
5限	外	道	音	算	社
6限	A	学	B	図	算

4期	月	火	水	木	金
1限	国	社	体	外	国
2限	算	国	図	家	体
3限	理	算	国	体	総
4限	理	理	算	国	総
5限	外	道	音	算	社
6限	A	学	B	図	算

（赤字は固定コマ）